



スマイシアHD株式会社 代表取締役会長  
アサヒグローバルホーム(株) 取締役会長  
ゴールドトラスト株式会社 取締役会長  
ゴールドエイジ株式会社 取締役会長  
文/久保川 議道  
text:Yoshimichi Kubokawa

## ChatGPT予測 『2040年のゴールドエイジ』

全ての「会長のひとりごと」がWEBで読める！  
『くぼかわよしみち.com』

くぼかわよしみち.com

検索



毎月  
20日  
更新!!

今グループ会社ではこの『ChatGPT』が大流行です。今まで1時間かかっていた報告資料を5分で作成してくれて、美しいデザインの挿し絵まで入れてくれます。これではもう絶対に使うしかありません。そして6月には幕張メッセのITの展示会にも、当社の製作した介護ロボットと建築現場のAI工事監督の4足歩行ロボットを展示ブースに出す予定で計画を進めています。今時代はAI・ChatGPT一色になってきました。

ゴールドエイジの今回の2040年予測は、顧問の今瀬先生が大量のデータを読み込ませて、ChatGPTで作成していただいた20ページほどの報告書になります。私も読ませていただきましたが、簡潔で知的で冷静なやはり精密機械のような答えに私は感動しています。さてゴールドエイジは2040年にどんな会社になっているのでしょうか。AIの表現する2040年をお知らせいたします。

まず拠点数ですが2025年は55拠点で2040年は100拠点(全国主要都市へ)。売上は80億円が200億円。全国で第6位が第3位圏内と予測されていました。第3位はフジ住建グループの275棟・9,146室。第2位はSOMPOジャパン146棟・9,636室。第1位は学研グループ212棟・

14,087室ですから、このあたりの第4位でしょうか。大変なことです。しかし売上は私が計算しても2040年に200億円を越えることは確実だと思います。

しかしそれを達成することは容易ではありません。GPTはKPI目標(目標を達成するために必要なプロセスや進捗の中間目標)を示してくれています。それは自宅復帰率を20%↓30%。夜勤人員1棟4名↓3名(ICTの情報通信技術活用)。離職率15%↓8%。外国人材比率20%(3,000人×20%≧600人)LIFE加算取得率80%以上とあります。人材不足は、外国人材+ロボット+ICTで補完。競合激化でリハ強み+自宅復帰率で差別化。介護報酬改定リスクは科学的介護(LIFE・エビデンスデータ)を活用し報酬を確保。地域偏差は全国展開でリスク分散とあります。

そしてゴールドエイジの現在の強みはリハビリ力・自宅復帰率を核に、医療・訪問看護と福祉用具とICT・AIと国際人材を強化すべきだと予測してくれています。なかなかGPTも的確なことを言ってくれるものです。そして強みは東海エリアでは地域密着型で信頼を確立しているそうです。これからはその

強みを生かしてフランチャイズ展開(自社直営+FC方式)でスピーディーに拡大可能だそうです。

そしてサ高住特化モデルで初期投資を軽く、入居者の自由度が高い住まいを提供すること。介護と住宅の一体化で入居支援、介護事業所の運営支援で包括的なサービスを実現しようという予測しています。しかし、全国的なブランド力の不足や事業ドメインが狭く、多角化が進んでいないと指摘されています。全国展開や多角化が課題だそうです。しかし2040年の高齢化ピークで特に後期高齢者が増加して、サ高住需要は拡大です。住まい型の高齢者住宅という位置づけで、医療介護・生活支援と連携する拠点化が期待され需要は拡大する見込みだそうです。

もし私(GPT)がゴールドエイジならこう動くという予想戦略案が印象的でした。それは、2040年時点において成功しているなら、ゴールドエイジは中々上位価格帯の差別化型サ高住。高齢者住宅運営企業として存在感を持てる可能性が高いと言ってくれています。私も正しいと思います。

ChatGPTの予測を参考に、全社員で2040年を実現したいと考えています。あと15年頑張りましょうか。

# わくわく 夢 ニュース【高齢者住宅】

2026

1月

No.228

ゴールドエイジロイヤル 一宮  
おかげさまで2周年を迎えました!  
楽しくいきいき、日常生活に輝きを持たせて!

